

腫瘍・診断病理学分野

論文

A 欧文

A-a

1. Matsuda K, Tateishi S, Akazawa Y, Kinoshita A, Yoshida S, Morisaki S, Fukushima A, Matsuwaki T, Yoshiura K, Nakashima M: Rapid growth of mitotically active cellular fibroma of the ovary: a case report and review of the literature. *Diagnostic Pathology* 11(1):101, 2016 (IF: 1.895)
2. Wada H, Matsuda K, Akazawa Y, Yamaguchi Y, Miura S, Ueki N, Kinoshita A, Yoshiura KI, Kondo H, Ito M, Nagayasu T, Nakashima M: Expression of somatostatin receptor type 2A and PTEN in neuroendocrine neoplasms is associated with tumor grade but not with site of origin. *Endocrine Pathology* 27:179-187, 2016 (IF: 1.817)
3. Khan KN, Fujishita A, Kitajima M, Masuzaki H, Nakashima M, Kitawaki J: Biological differences between functionalis and basalis endometria in women with and without adenomyosis. *European Journal of Obstetrics & Gynecology and Reproductive Biology* 203:49-55, 2016 (IF: 1.662)
4. Nikitski A, Saenko V, Shimamura M, Nakashima M, Matsuse M, Suzuki K, Rogounovitch T, Bogdanova T, Shibusawa N, Yamada M, Nagayama Y, Yamashita S, Mitsutake N: Targeted Foxe1 overexpression in mouse thyroid causes the development of multinodular goiter but does not promote carcinogenesis. *Endocrinology* 157(5):2182-95, 2016 (IF: 4.159)
5. Koga T, Mizokami A, Nakashima M, Shimizu T, Nakashima Y, Nakamura H, Chiwata M, Daisuke N, Kawakami A: Histological improvement in salivary gland along with effector memory Th17-1 cell reduction in a primary Sjogren's syndrome patient with dermatomyositis and diffuse large B-cell lymphoma by R-CHOP therapy. *Clinical Immunology* 165:35-37, 2016 (IF: 4.034)
6. Mussazhanova Z, Akazawa Y, Matsuda K, Shichijo K, Miura S, Otsubo R, Oikawa M, Yoshiura KI, Mitsutake N, Rogounovitch T, Saenko V, Kozykenova Z, Zhetpisbaev B, Shabdarbaeva D, Sayakenov N, Amantayev B, Kondo H, Ito M, Nakashima M: Association between p53-binding protein 1 expression and genomic instability in oncocytic follicular adenoma of the thyroid. *Endocrine Journal* 63(5):457-467, 2016 (IF: 1.895)
7. Stepanenko V, Rakhypbekov T, Kaprin A, Ivanov S, Otani K, Endo S, Satoh K, Kawano N, Takatsuji T, Nakashima M, Shichijo K, Sakaguchi A, Kato H, Onda Y, Fujimoto N, Toyoda S, Sato H, Kolyzhenkov T, Petukhov A, Dyussupov A, Chaizhunusova N, Sayakenov N, Uzbekov D, Saimova A, Shabdarbaeva D, Pivina L, Skakov M, Vurim A, Gnryra V, Azimkhanov A, Kolbayenkov A, Zhumadilov K, Kairkhanova Y, Yaskova E, Belukha I, Skvortsov V, Ivannikov A, Khailov A, Akhmedova U, Bogacheva V, Anokhin Y, Orlenko S, Hoshi M: Irradiation of laboratory animals by neutron activated dust: development and application of the method - first results of international multicenter study. *Radiation and Risk* 25:111-125, 2016 (IF: 0.605)

B 邦文

B-a

1. 南ひとみ、井上晴洋、Haji A、磯本 一、卜部繁俊、橋口慶一、松島加代子、赤澤祐子、山口直之、大仁田賢、竹島史直、中尾一彦: POEM 進化する手技と適応. *日本消化器内視鏡学会* 58(7):1259-1266, 2016
2. 山口直之、磯本 一、井上直樹、荻原久美、中鋪 卓、橋口慶一、松島加代子、南ひとみ、赤澤祐子、大仁田賢、竹島史直、宿輪三郎、中尾一彦: 【消化器治療・最前線】食道癌に対する光線力学療法(PDT)~化学放射線療法後遺残再発食道癌に対するサルベージ PDT の可能性~. *Medical Photonics* 22:35-42, 2016
3. 黒濱大和、三原裕美、梅崎 靖、宿輪哲生、岸川正大、三浦史郎、中島正洋、横山繁生、伊東正博: こめかみに発生した endocrine mucin-producing sweat gland carcinoma の 1 例. *診断病理* 33(3):224-227, 2016
4. 松山睦美、入船 理、七條和子、松田勝也、三浦史郎、関根一郎、中島正洋: ラット放射線誘発甲状腺がんの年齢影響. *広島医学* 69(4):307-310, 2016
5. 松山睦美、川副靖晃、七條和子、松田勝也、三浦史郎、中島正洋: ラット放射線誘発甲状腺がんの年齢影響とオートファジー関連遺伝子の発現解析. *長崎医学* 91(特別号):271-274, 2016
6. 鎌田七男、七條和子、高辻俊宏、松山睦美、武島幸男、関根一郎、中島正洋: 広島フオールアウト地域 4 重がん症例の肺がん組織で証明された内部被ばく. *広島医学* 69(4):359-361, 2016

B-c

1. 中島正洋: 新版 放射線医学科-生命と放射線・電磁波・超音波-. 医療科学社:61-63
2. 中島正洋: 改訂第 6 版 内分泌系 岩田隆子監修 わかりやすい病理学. 南江堂:216-235

学会発表数

A-a	A-b		B-a	B-b	
	シンポジウム	学会		シンポジウム	学会
6	1	2	0	3	39

社会活動

氏名・職	委員会等名	関係機関名
中島正洋・教授	評議員	日本病理学会
中島正洋・教授	評議員	日本内分泌病理学会
中島正洋・教授	評議員	日本臨床細胞学会
中島正洋・教授	非常勤研究員	(財)放射線影響研究所
中島正洋・教授	疫学部顧問	(財)放射線影響研究所
中島正洋・教授	副会長	長崎県臨床細胞学会
中島正洋・教授	がん対策部会専門委員会(がん登録委員会)委員	長崎県保健医療対策協議会
中島正洋・教授	代議員	日本細胞診断学推進協会
中島正洋・教授	理事	日本甲状腺病理学会
中島正洋・教授	理事	長崎原子爆弾後障害研究会
中島正洋・教授	特別講師	第44回九州細胞診研修会
七條和子・助教	評議員	日本実験潰瘍学会
七條和子・助教	学術評議員	日本薬理学会
松田勝也・助教	理事	長崎県臨床細胞学会
松田勝也・助教	細胞検査士会 50周年記念事業 実行委員	細胞検査士会

競争的研究資金獲得状況（共同研究を含む）

氏名・職	資金提供元	代表・分担	研究題目
中島正洋・教授	日本学術振興会	分担	基盤研究(B) 福島の今後を見据えたチェルノブイリにおける疫学研究の展開
中島正洋・教授	日本学術振興会	分担	基盤研究(B) 甲状腺がん発症の分子機構と予後決定因子の解明
中島正洋・教授	日本学術振興会	分担	基盤研究(C) 長崎原爆被爆者腫瘍バンクと網羅的分子病理学的解析研究
中島正洋・教授	日本学術振興会	分担	基盤研究(C) ラット放射線甲状腺腫瘍の年齢影響
中島正洋・教授	日本学術振興会	代表	基盤研究(C) 放射線誘発甲状腺発がんリスク亢進の刻印探索
中島正洋・教授	日本学術振興会	分担	基盤研究(A) 国際共同研究による甲状腺がん分子疫学調査研究

中島正洋・教授	日本学術振興会	分担	基盤研究(C) 放射線誘発小児甲状腺がんの分子疫学的研究
中島正洋・教授	日本学術振興会	分担	基盤研究(C) 甲状腺乳頭癌における新規リンパ節転移診断キットの開発
中島正洋・教授	日本学術振興会	分担	基盤研究(C) ゲノム不安定性が解き明かす非アルコール性脂肪性肝炎の発癌ポテンシャル
七條和子・助教	日本学術振興会	分担	基盤研究(A) カザフ核実験場周辺住民の放射性降下物被曝の実態解明—線量評価及び健康影響解析—
松田勝也・助教	日本学術振興会	代表	基盤研究(C) 尿細胞診でのゲノム不安定性を指標とした低異型尿路上皮癌新規診断マーカーの開発
松田勝也・助教	黒住医学研究財団	代表	第23回研究助成金 DNA損傷応答分子53BP1発現による甲状腺濾胞性腫瘍術前診断マーカーの開発
中島正洋・教授	武田科学振興財団	分担	特定研究助成金 全ヒトゲノム配列で明らかにする放射線被ばく影響の時間的経過とその結果
中島正洋・教授	味の素株式会社		シスチン・テアニンのラット腸管における放射線防護効果の検討
七條和子・助教	エーザイ・ジャパン		放射線腸炎の発生機構について
七條和子・助教	広島大学原爆放射線医科学研究所		原爆被爆者に関するプルトニウムと内部被曝の研究—その4
七條和子・助教	東北大学加齢医学研究所		長崎原爆被爆におけるプルトニウム内部被ばくの研究

特 許

氏名・職	特 許 権 名 称	出願年月日	取得年月日	番号
平川 宏・助教	癌転移の検出方法および検出用キット	2010年 2月22日	2014年 9月12日	特許第5610125号

その他

非常勤講師

氏名・職	職 (担当科目)	関 係 機 関 名
中島正洋・教授	非常勤講師(病理学)	長崎市医師会看護専門学校
松田勝也・助教	非常勤講師(病理学)	長崎市医師会看護専門学校
七條和子・助教	非常勤講師(病理学)	長崎女子短期大学

新聞等に掲載された活動

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
中島正洋・教授	54 枚の写真～長崎・被爆者を訪ねて～	NHKE テレ	2016 年 8 月 6 日	昨年アメリカ国立公文書館で、長崎の被爆者を写した 54 枚の写真が発見された。敗戦直後の 1946 年と 47 年、写真は何のために撮影されたのか。担当した ABCC（原爆傷害調査委員会）は、その後放射線影響研究所となり、放射線リスクの基準作成に携わっていた。54 枚の写真をもとに被爆者たちの戦後を訪ねていく。

○特筆すべき事項

- ①七條和子・助教: カザフスタン共和国より、セミパラチンスク核実験場閉鎖 25 周年記念式典にて国際反核運動において感謝状を授与された。2016 年 8 月 28 日